



小松ウオール工業株式会社 | 東証プライム 7949

# 中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

2023年5月25日

<b>事業概要</b>	2
<b>中期経営計画</b>	6
<b>2023年3月期 決算概要</b>	23
<b>2024年3月期 業績予想</b>	27
<b>Appendix</b>	29

中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

## 事業概要

# 主要製品 売上高構成比

## 可動間仕切

売上高 15,654 百万円  
構成比 41.4 %



## 固定間仕切

売上高 7,958 百万円  
構成比 21.1 %



## トイレブース

売上高 7,014 百万円  
構成比 18.6 %



## 移動間仕切

売上高 5,395 百万円  
構成比 14.3 %



## ロ一間仕切

売上高 586 百万円  
構成比 1.6 %



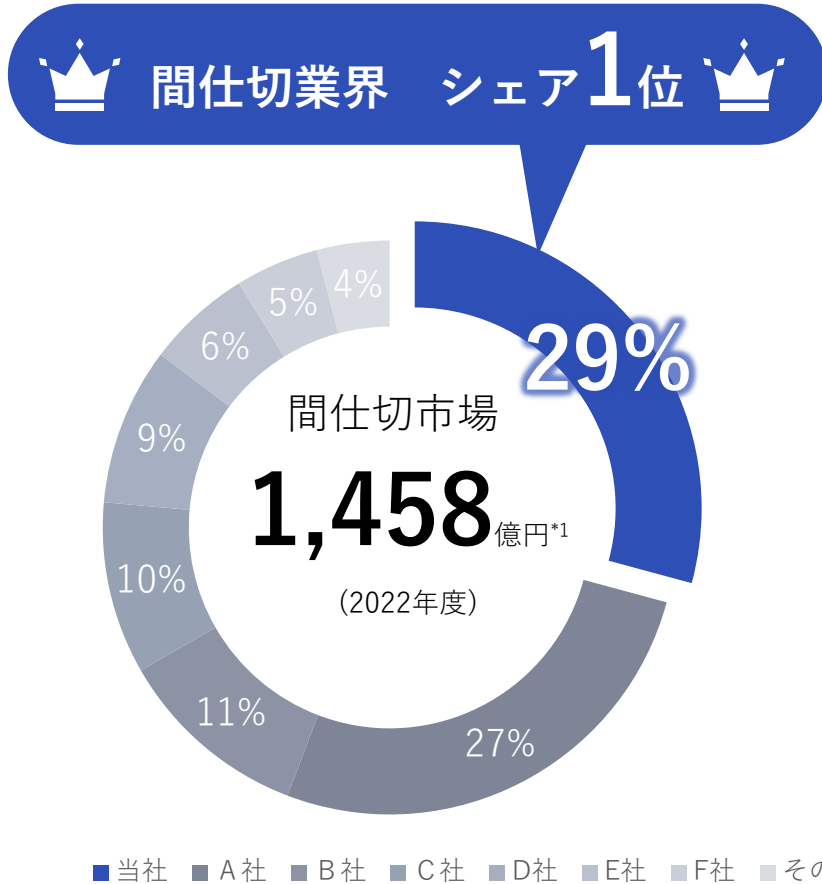
売上高

**37,772**

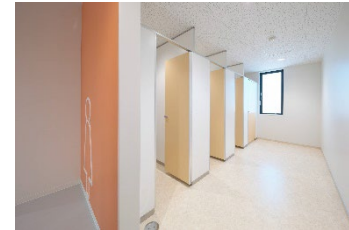
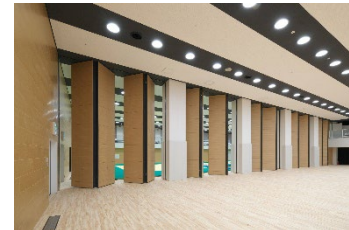
百万円  
(2023/3期)

# 当社のポジション

■ 間仕切市場は1,458億円、当社のシェアは業界トップの29%、市場規模の大きい可動間仕切、移動間仕切、トイレブースで高シェア



- 可動間仕切  
**27.5%** シェア2位
- 移動間仕切  
**36.1%** シェア1位
- トイレブース  
**34.1%** シェア1位
- 学校間仕切  
**13.1%** シェア4位
- 壁面化粧パネル  
**39.1%** シェア1位



\*1 当社調べ

## オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制





中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

# 中期経営計画『NEXT VISION 2028』 (2024年3月期～2028年3月期)

## 中期経営計画

「NEXT VISION 2028」  
～ Value Up from Creativity ～



## 事業環境の変化

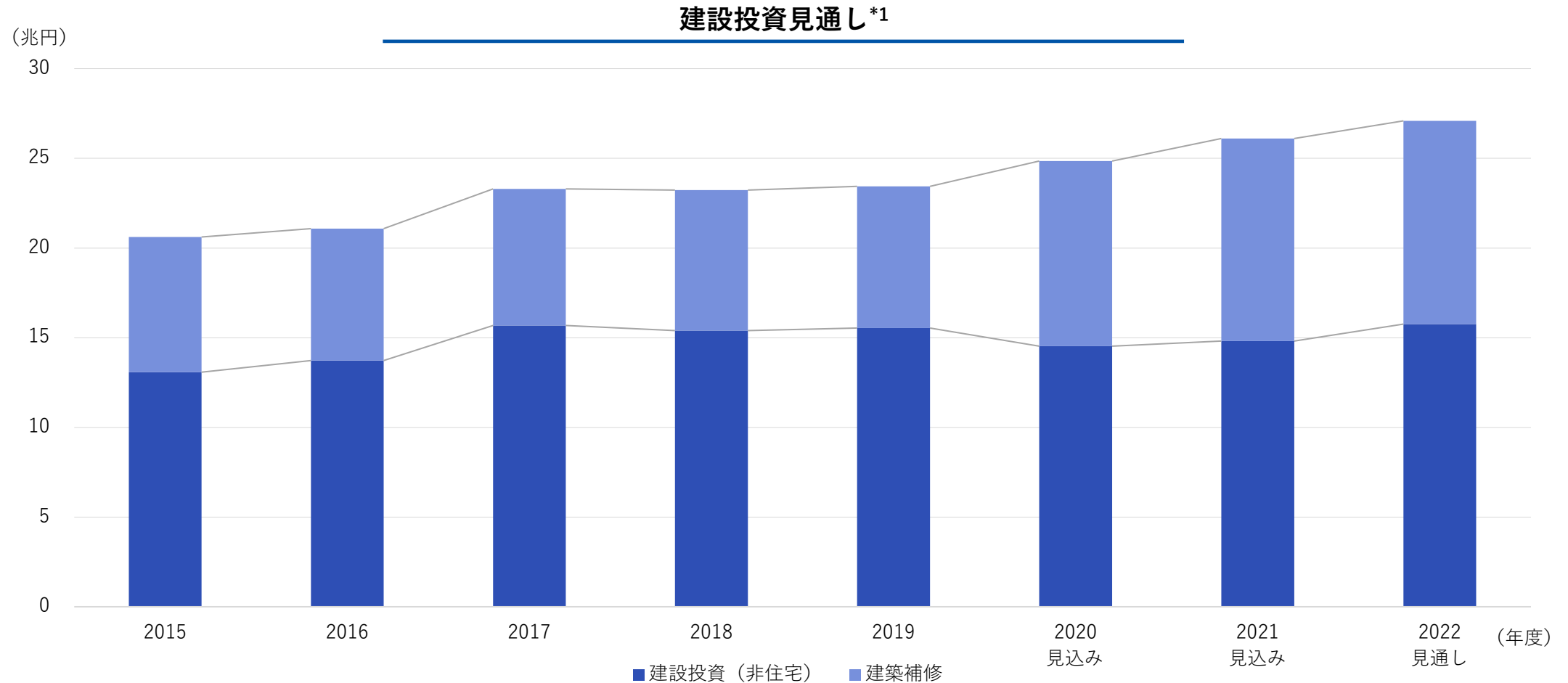
### 社会

- 国内少子高齢化と生産年齢人口減少
- 急速なデジタル技術の進展
- 原材料やエネルギー価格の高騰

### 業界

- 労働力不足の深刻化
- 競合他社との競争激化
- 国内建設市場の緩やかな増加

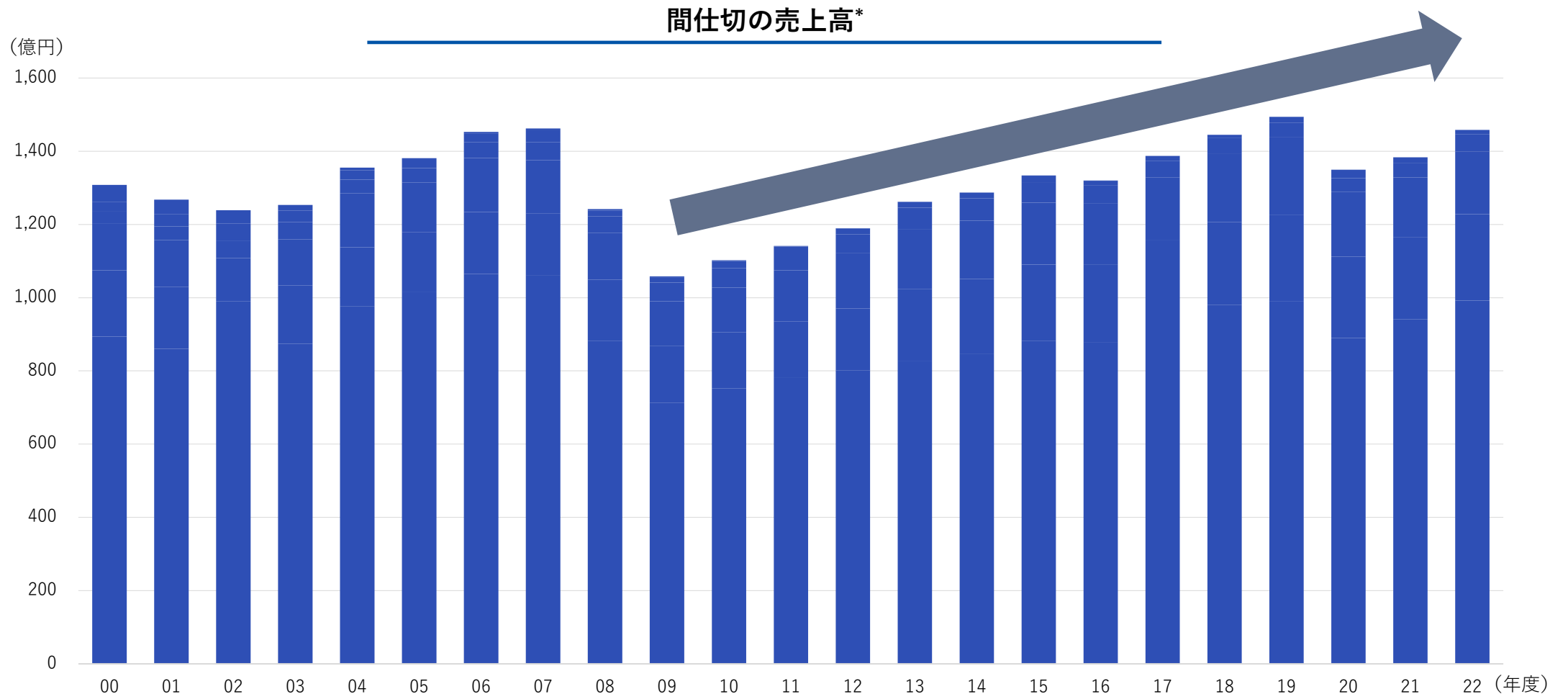
■ 非住宅の建設投資はコロナ禍で2020年度は落ち込んだものの、建設補修の増加により、トータルでは増加が続く



\*1 「建設投資見通し」国土交通省 2020年度.2021年度は「見込み」、2022年度は「見通し」

## 市場環境 (2)

- 2008年度のリーマンショックによる減少後は着実に回復、コロナ禍での一時的な落ち込みがあったが、2022年度は1,458億円の販売高
- 東京再開発などの案件もあり、当中期経営計画期間中もオフィスビル向けを中心に堅調な増加を予想



\* 日本パーティション工業会に属する間仕切メーカー10社の売上高合計

## オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制



事業環境の変化を捉え、  
プラスの市場に対して、  
当社の強みをより活かしたい

既存間仕切事業の成長

新規製品の創出

生産・物流オペレーションの高度化

NEXT VISION 2028

## 既存間仕切事業の成長

オフィス市場への更なる進出

市場規模の大きい首都圏を中心に、顧客領域を拡大・深耕

新たな営業拠点の展開

更なる全国展開に向けた空白エリアへの新規営業拠点を増設

製品用途の拡大

当社の主力製品である移動間仕切製品のブラッシュアップ

ブランディングの強化

ショールームの新規オープンや、HP及びカタログの刷新



NEXT VISION 2028

## 新規製品の創出

製品企画人材の採用・育成

採用促進に向けた人事部門の強化と社内育成環境の整備

製品技術力の向上

製品企画部門における体制強化と業務プロセス改革の推進

デザイン性の向上

共同推進するパートナー企業との更なる連携強化

マーケティングの強化

顧客ニーズや市場調査結果を製品企画に反映する仕組み構築

NEXT VISION 2028

## 生産・物流オペレーションの高度化

製造ラインの生産性改善

更なる自動化に向けた設備導入と工程レイアウトの見直し

協力会社とのリレーション強化

施工人材を確保するための協力会社との連携強化

生産拠点の環境対策

コスト削減を含めたグリーントランスフォーメーション推進

物流網の再構築

2024年問題対策と物量増を見込んだ物流倉庫やルート見直し

## 取組み例 名古屋ショールーム

■ 重点エリアとして名古屋を選定

■ ワークショップの意見を反映⇒移動間仕切の用途開発、これまでのショールーム開発経験⇒仕上材を体現



## マテリアリティ（重要課題）の特定

	マテリアリティ	テーマ	関連するSDGs
E	持続可能な循環型社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルに向けた取り組み</li> <li>再生可能エネルギーの利用</li> <li>廃棄物削減と資源の有効活用</li> </ul>	
	製品を通じた気候変動対応への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ製品対応に向けた製品開発・改良</li> </ul>	
S	人材の活躍と人権・多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンゲージメントの向上</li> <li>人材育成の強化</li> </ul>	
	ダイバーシティ&インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすさ、働きがいの向上、ワークライフバランスの推進</li> <li>健康経営とダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> </ul>	
	DX推進と生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルデータの活用と社内業務の協働によるビジネスモデルの構築</li> </ul>	
	ステークホルダーエンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なイニシアチブへの参画</li> <li>顧客満足度の向上</li> <li>公正な取引の遵守</li> </ul>	
G	ガバナンスの更なる改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンスの強化</li> <li>内部統制の強化</li> </ul>	
	災害対策、リスク管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントのさらなる推進</li> </ul>	

■ 2028年3月期に目指す将来像に向けて、中期経営計画では5年間で累計50億円以上の投資を計画

## NEXT VISION 2028

既存間仕切事業の成長

新規製品の創出

生産・物流オペレーションの高度化

サステナビリティの推進

累計  
50億円  
以上

	2023年3月期 実績		2028年3月期 目標
成長性 (売上高年平均成長率)	3.6% <sup>*1</sup>	>	3~6% <sup>*2</sup>
収益性 (売上高営業利益率)	6.1%	>	7~10%
効率性 (ROE)	4.5%	>	5~8%

\*1: 2018年3月期を基準とし、2023年3月期までの年平均成長率

\*2: 2023年3月期を基準とし、2028年3月期までの年平均成長率

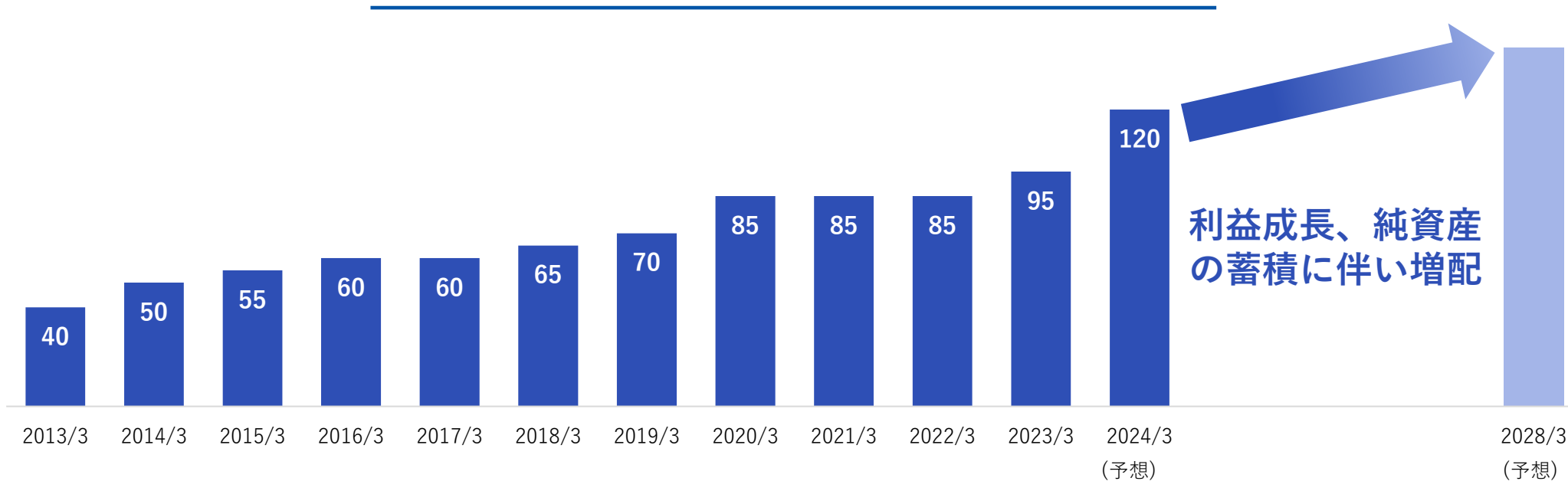


## 株主還元方針

純資産配当率\*（D O E）3.0%を下限とする配当を実施し、  
持続的な成長の実現等により配当水準の安定的向上を目指す

\*純資産配当率（D O E）＝当事業年度に基準日が属する普通株式に係る1株当たり配当金  
/ 1株当たり純資産（期首・期末の平均値）×100

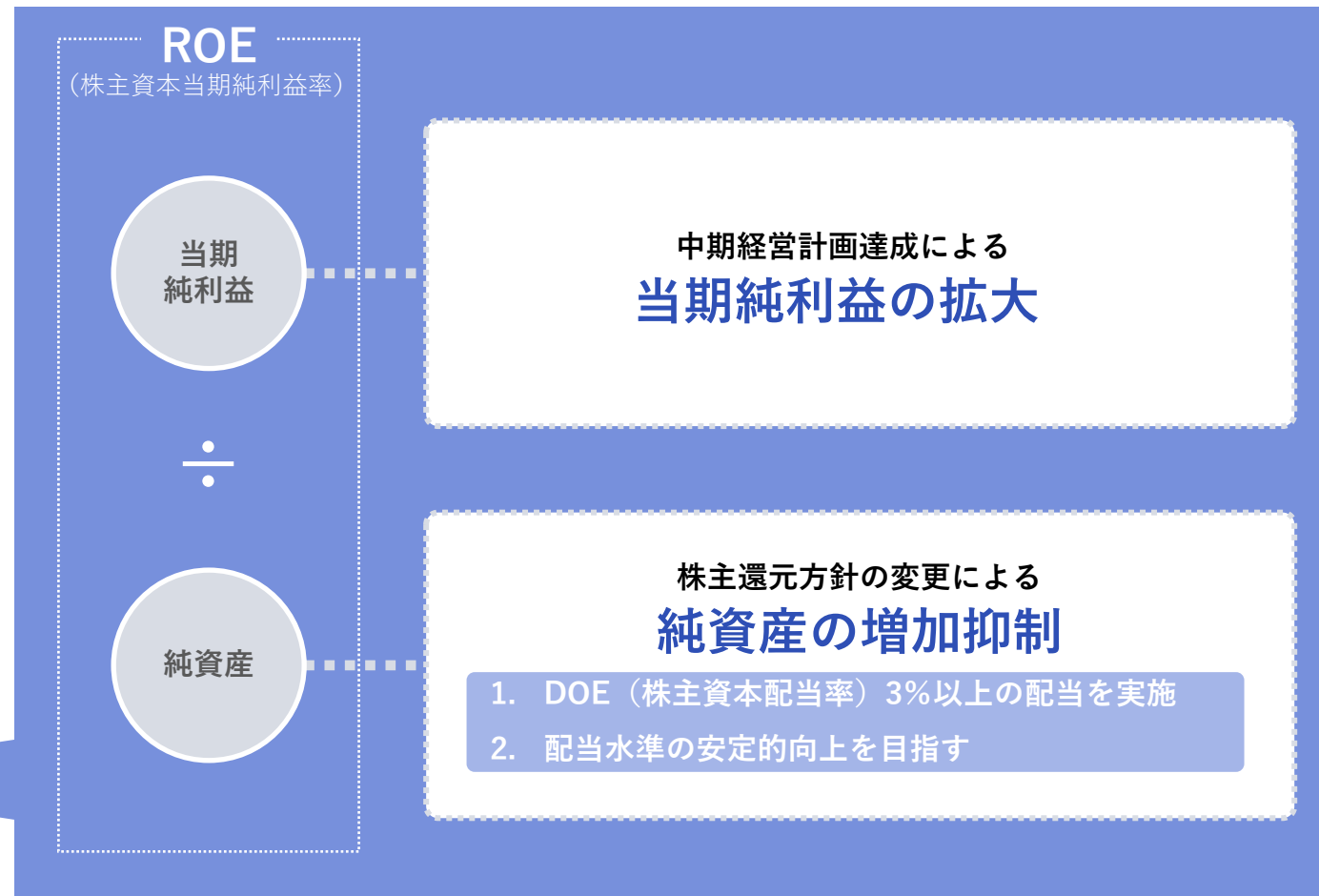
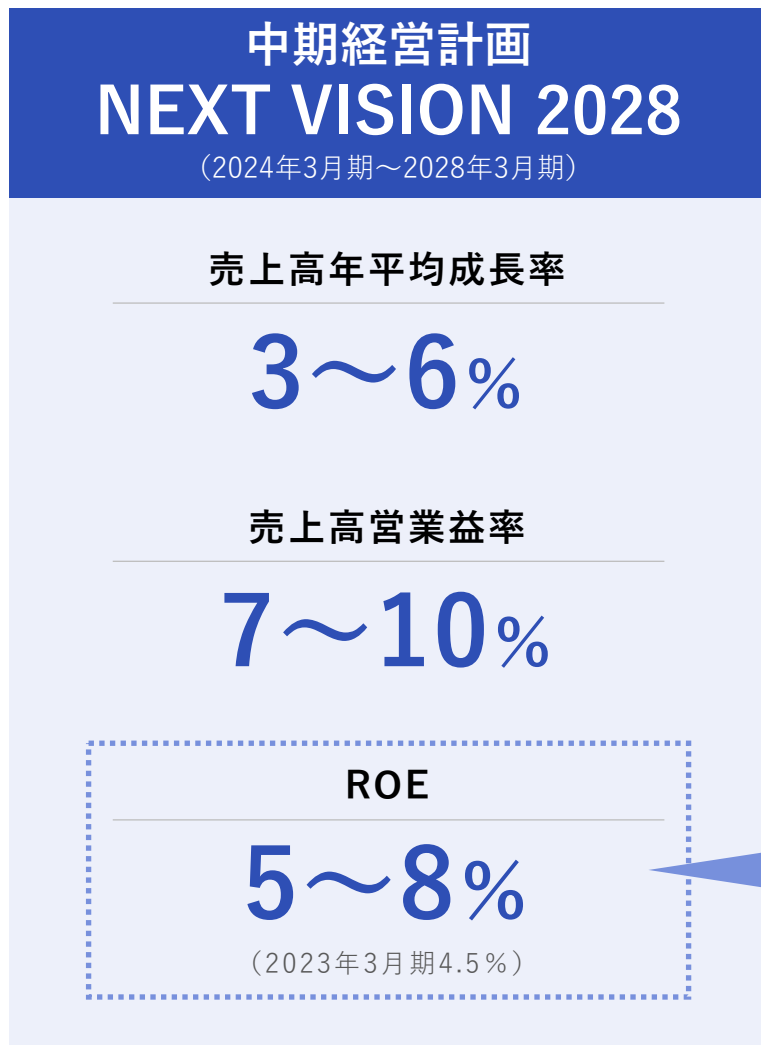
1株当たり配当金推移（円）





# ROE・効率性を意識した経営の実現に向けた対応

- 中期経営計画達成による当期純利益の拡大と、配当水準の安定的向上による純資産の増加抑制により、ROE（当期純利益/純資産）の向上を目指す



中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

## 2023年3月期 決算概要

# 決算概要

■ オフィス向けの可動間仕切や文教施設等の移動間仕切の回復を主因に、売上高は9.4%増収

単位：百万円	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期予想 (23年1月時点)		2023年3月期		前期比	予想比
売上高	33,565	100%	34,541	100%	37,000	100%	<b>37,772</b>	<b>100%</b>	<b>+9.4%</b>	<b>+2.1%</b>
営業利益	2,348	7.0%	1,780	5.2%	2,000	5.4%	<b>2,306</b>	<b>6.1%</b>	<b>+29.6%</b>	<b>+15.3%</b>
経常利益	2,412	7.2%	1,847	5.3%	2,050	5.5%	<b>2,363</b>	<b>6.3%</b>	<b>+27.9%</b>	<b>+15.3%</b>
当期純利益	1,620	4.8%	1,240	3.6%	1,370	3.7%	<b>1,627</b>	<b>4.3%</b>	<b>+31.2%</b>	<b>+18.8%</b>
1株当たり 当期純利益	175円11銭		133円76銭		147円53銭		<b>175円28銭</b>		<b>+31.0%</b>	—
1株当たり 配当金	85円00銭		85円00銭		90円00銭		<b>95円00銭</b>		<b>+11.8%</b>	—

# 決算概要（半期）

■ 売上高は下期から本格回復、上期の前年同期比0.8%増収に対して下期は16.7%増収、営業利益も下期は60.9%増益となった

■ 材料高を背景にした2022年2月からの製品価格を引き上げや、オーダーメイド品強化による付加価値向上策、大型ショールームの開設等が下期から本格的に寄与し、営業利益も29.6%増益となった

単位：百万円	2022年3月期			2023年3月期					
	上期	下期	通期	上期	前同比	下期	前同比	通期	前期比
売上高	15,944	<b>18,597</b>	<b>34,541</b>	16,074	+0.8%	<b>21,698</b>	<b>+16.7%</b>	<b>37,772</b>	<b>+9.4%</b>
売上総利益	5,226	<b>6,073</b>	<b>11,299</b>	5,048	▲3.4%	<b>7,360</b>	<b>+21.2%</b>	<b>12,408</b>	<b>+9.8%</b>
販管費	4,703	<b>4,815</b>	<b>9,518</b>	4,766	+1.3%	<b>5,335</b>	<b>+10.8%</b>	<b>10,101</b>	<b>+6.1%</b>
営業利益	522	<b>1,258</b>	<b>1,780</b>	282	▲46.0%	<b>2,024</b>	<b>+60.9%</b>	<b>2,306</b>	<b>+29.6%</b>
経常利益	563	<b>1,284</b>	<b>1,847</b>	312	▲44.6%	<b>2,051</b>	<b>+59.7%</b>	<b>2,363</b>	<b>+27.9%</b>
当期純利益	341	<b>899</b>	<b>1,240</b>	196	▲42.5%	<b>1,431</b>	<b>+59.2%</b>	<b>1,627</b>	<b>+31.2%</b>

## 品目別売上高

■ その他を除く全品目で増収となった。可動間仕切はオフィスの改修向けが増加、移動間仕切は文教施設向け等が好調で2桁増収、軽量ドアなどの固定間仕切とトイレブースも値上げ効果等により下期から増収に転じた

■ 受注残はすべての品目で増加、オフィスや文教施設向けが堅調なことに加え、原材料高を背景に建設業者が早めに受注する動きも出ている

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期					
		実績	前期比	受注高	前期比	受注残高	前期比
売上高	34,541	<b>37,772</b>	<b>+9.4%</b>	40,190	+10.4%	<b>16,546</b>	<b>+17.1%</b>
└ 可動間仕切	13,271	<b>15,654</b>	<b>+18.0%</b>	16,462	+15.4%	<b>4,197</b>	<b>+23.8%</b>
└ 固定間仕切	7,797	<b>7,958</b>	<b>+2.1%</b>	8,148	+4.1%	<b>4,306</b>	<b>+4.6%</b>
└ トイレブース	6,994	<b>7,014</b>	<b>+0.3%</b>	7,676	+8.3%	<b>3,131</b>	<b>+26.8%</b>
└ 移動間仕切	4,623	<b>5,395</b>	<b>+16.7%</b>	6,107	+14.9%	<b>4,393</b>	<b>+19.4%</b>
└ ロー間仕切	582	<b>586</b>	<b>+0.7%</b>	603	+1.6%	<b>86</b>	<b>+24.9%</b>
└ その他	1,273	<b>1,163</b>	<b>▲8.7%</b>	1,191	<b>▲8.9%</b>	<b>429</b>	<b>+7.1%</b>

中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

## 2024年3月期 業績予想

# 業績予想

- 前期に続き可動間仕切や移動間仕切が牽引、大型ショールームの展開や高付加価値品へのシフトなどを見込み、売上高は5.9%増収を予想
- 高付加価値品へのシフトや価格引き上げ後に受注した商品の構成比が高まることから、営業利益も前期比25.7%増益を予想
- 配当は前期比25円増配の120円予想、DOEは3.0%となる見通し

単位：百万円	2023年3月期2Q		2023年3月期		2024年3月期 2 Q 予想		前年同期比	2024年3月期 予想		前期比
売上高	16,074	100%	37,772	100%	<b>18,000</b>	<b>100%</b>	+12.0%	<b>40,000</b>	<b>100%</b>	+5.9%
営業利益	282	1.8%	2,306	6.1%	<b>600</b>	<b>3.3%</b>	+112.3%	<b>2,900</b>	<b>7.3%</b>	+25.7%
経常利益	312	1.9%	2,363	6.3%	<b>650</b>	<b>3.6%</b>	+108.1%	<b>2,950</b>	<b>7.4%</b>	+24.8%
当期純利益	196	1.2%	1,627	4.3%	<b>400</b>	<b>2.2%</b>	+103.2%	<b>1,980</b>	<b>5.0%</b>	+21.6%
1株当たり 当期純利益	21円20銭		175円28銭		<b>43円07銭</b>		+103.1%	<b>213円20銭</b>		+21.6%
1株当たり 配当	40円00銭		95円00銭		<b>55円00銭</b>		+37.5%	<b>120円00銭</b>		+26.3%



中期経営計画・2023年3月期決算概要説明

## Appendix

# 貸借対照表

## ■ 増収に伴い売上債権と買掛金が増加

単位：百万円	2022年3月期末	2023年3月期末	前期末差
<b>流動資産</b>	<b>27,472</b>	<b>29,999</b>	<b>+2,527</b>
現預金	15,335	15,579	+244
売上債権	11,115	13,181	+2,066
棚卸資産	818	1,023	+205
<b>固定資産</b>	<b>14,670</b>	<b>14,760</b>	<b>+90</b>
有形固定資産	11,918	11,922	+4
無形固定資産	450	420	▲30
投資その他の資産	2,300	2,418	+118
<b>総資産</b>	<b>42,143</b>	<b>44,760</b>	<b>+2,617</b>
<b>負債</b>	<b>6,743</b>	<b>8,535</b>	<b>+1,792</b>
買掛金	1,956	2,345	+389
有利子負債	0	0	0
<b>純資産</b>	<b>35,399</b>	<b>36,225</b>	<b>+826</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>42,143</b>	<b>44,760</b>	<b>+2,617</b>

# キャッシュフロー計算書

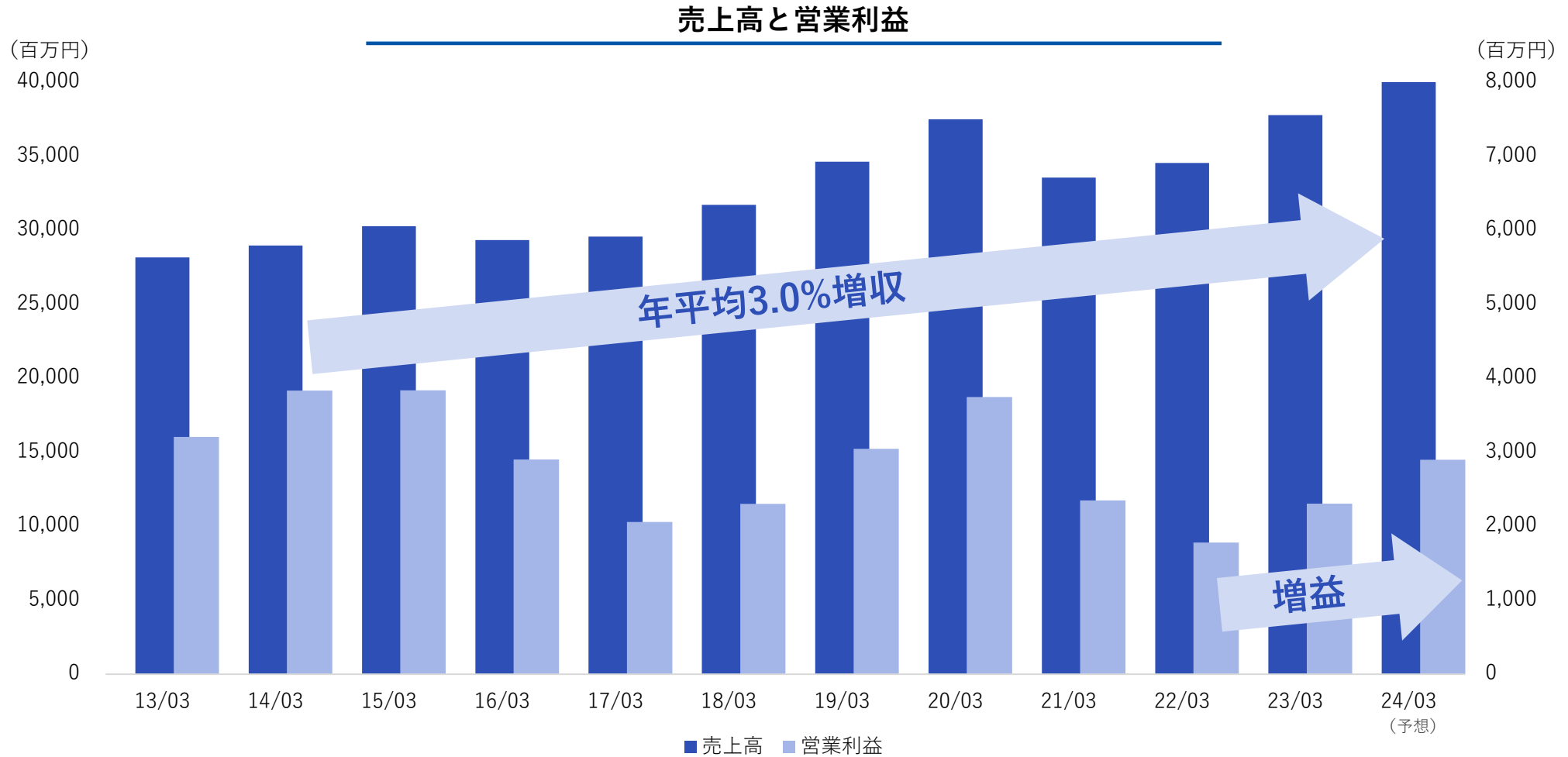
■ 増収に伴う売上債権の増加により営業キャッシュフローは前期比1,195百万円減少したが、1,676百万円のプラスを維持

■ フリーキャッシュフローも1,040百万円のプラス

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	前期差
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,871</b>	<b>1,676</b>	<b>▲1,195</b>
税引前当期純利益	1,847	2,446	+599
減価償却費	1,070	1,073	+3
売上債権の増減額 (▲は増加)	563	▲2,064	▲2,627
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	▲160	▲204	▲44
仕入債務の増減額 (▲は減少)	134	389	+255
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲1,535</b>	<b>▲636</b>	<b>+899</b>
有形固定資産の取得による支出	▲847	▲583	+264
定期預金の預入・払戻による支出入	▲600	0	+600
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲805</b>	<b>▲810</b>	<b>▲5</b>
配当金の支払額	▲805	▲804	+1
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>11,246</b>	<b>11,476</b>	<b>+230</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>1,336</b>	<b>1,040</b>	<b>▲296</b>

■ 間仕切需要拡大に伴い、売上高は2023年3月期まで過去10年間で年平均3.0%増収

■ 営業利益はコロナ禍影響により2期減益が続いたが、2023年3月期は増収増益に転換、2024年3月期も引き続き増収増益を予想



株主との会話の対応者

取締役専務執行役員（IR・経営企画担当） 加納 慎也 ■株主総会後に代表取締役社長就任予定

2023年3月期からIR体制を強化。IR担当役員を決めIR対応。2023年3月期2Qより決算説明資料と説明動画をホームページにアップ  
2023年3月期は「中期経営計画・決算概要説明資料」を公表し、決算説明会を開催

対話の主なテーマや株主への  
関心事項

事業概要／決算概要

当社の競争優位性

中長期的な競争戦略

資本政策、サステナビリティ等

経営陣や取締役会に対する  
実施状況

取締役自身が機関投資家と対話をしており、他の取締役に適宜フィードバックしている

フィードバックを踏まえて  
取り入れた事項

資本効率を念頭においた株主還元方針の決定

資本政策や競争戦略についての意見を中期経営計画『NEXT VISION 2028』の策定過程で議論

社名	小松ウオール工業株式会社
代表取締役社長	加納 裕
設立	1968年1月
上場市場	東証 プライム (7949)
事業内容	可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切の製造、設計、販売、施工等
売上高	377億円 (2023年3月末)
従業員数	1,330名 (2023年3月末)
本社	石川県小松市工業団地1丁目72番地
営業拠点	全国53支店



# 工場

■ 石川県小松市、加賀市の4工場の間仕切・トイレブース・ドアを製造

## 第三工場

可動間仕切の製造



## 加賀工場

ドアの製造



## 第一工場

移動間仕切の製造



## 本社・第二工場

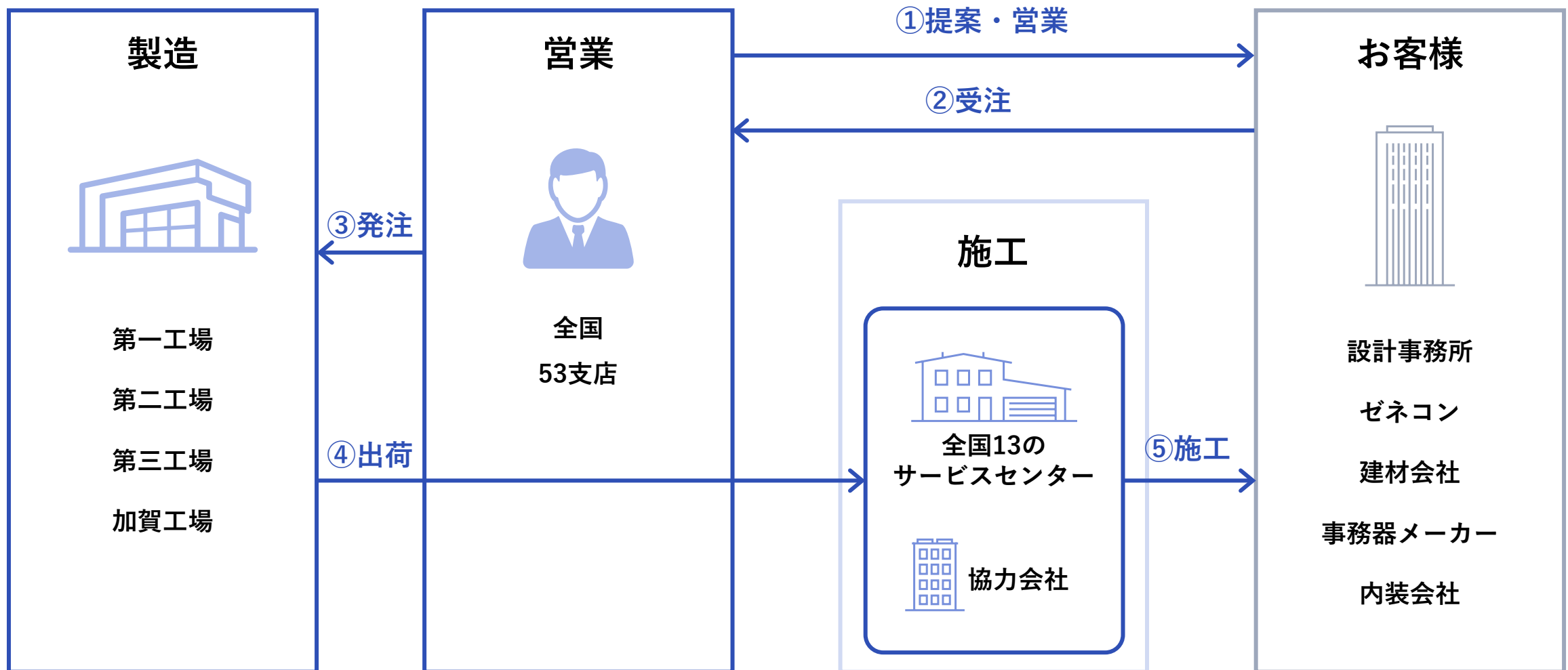
本社及び  
トイレブースの製造





# 事業概要 ビジネスの流れ

■ 製造から施工まで当社で対応、営業は全国53支店、製造は4工場

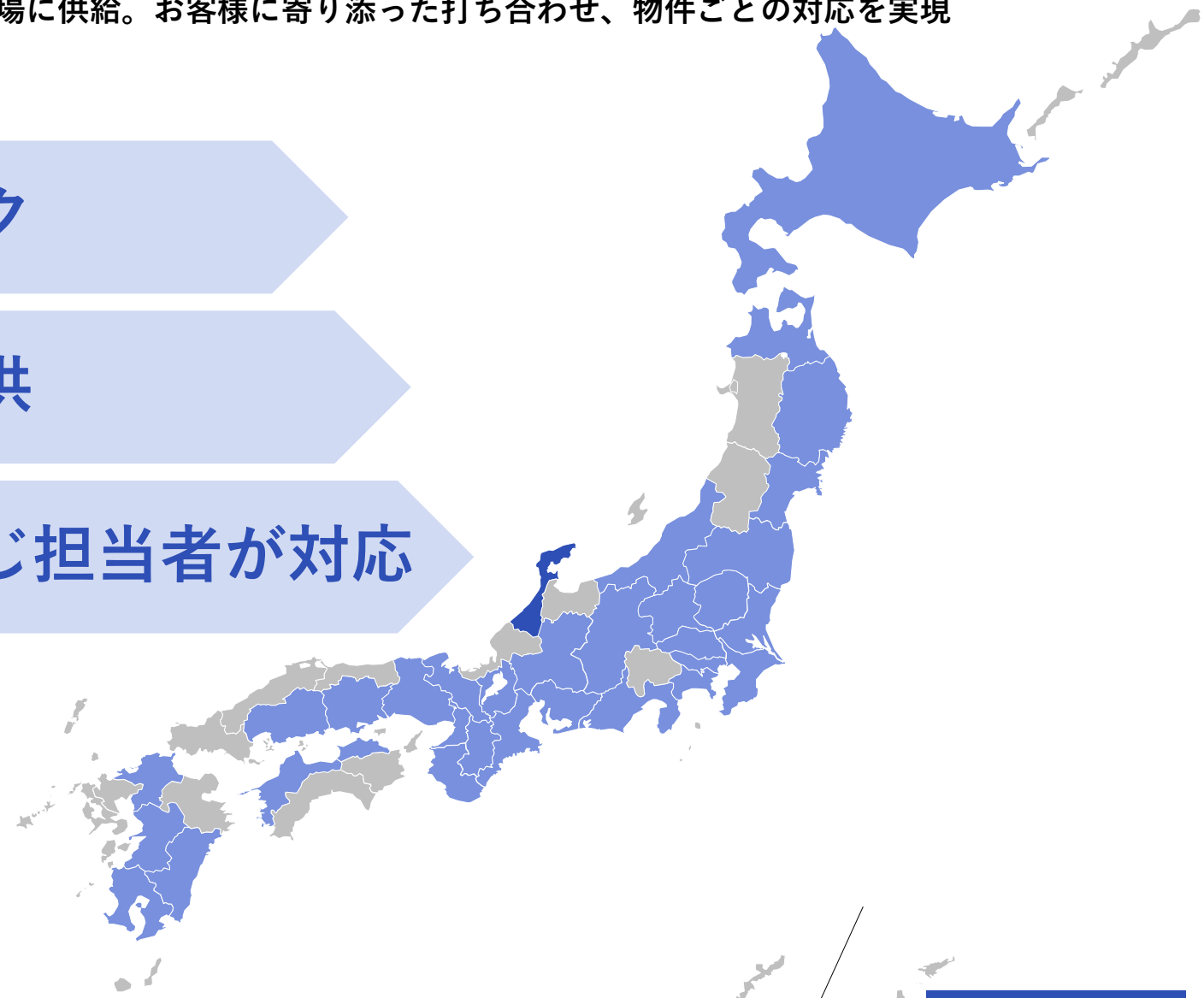


■ 全国に53拠点の支店を配置、全国に安定した納期、品質で市場に供給。お客様に寄り添った打ち合わせ、物件ごとの対応を実現

■ 地域での強いネットワーク

■ オーダーメイド品の提供

■ 受注から施工まで同じ担当者が対応



\*青色の都道府県には支店を設置

## オーダーメイド対応へのこだわり

■ 自社開発品の提案のみならず、設計事務所などからの要望に沿った製品も開発・設計



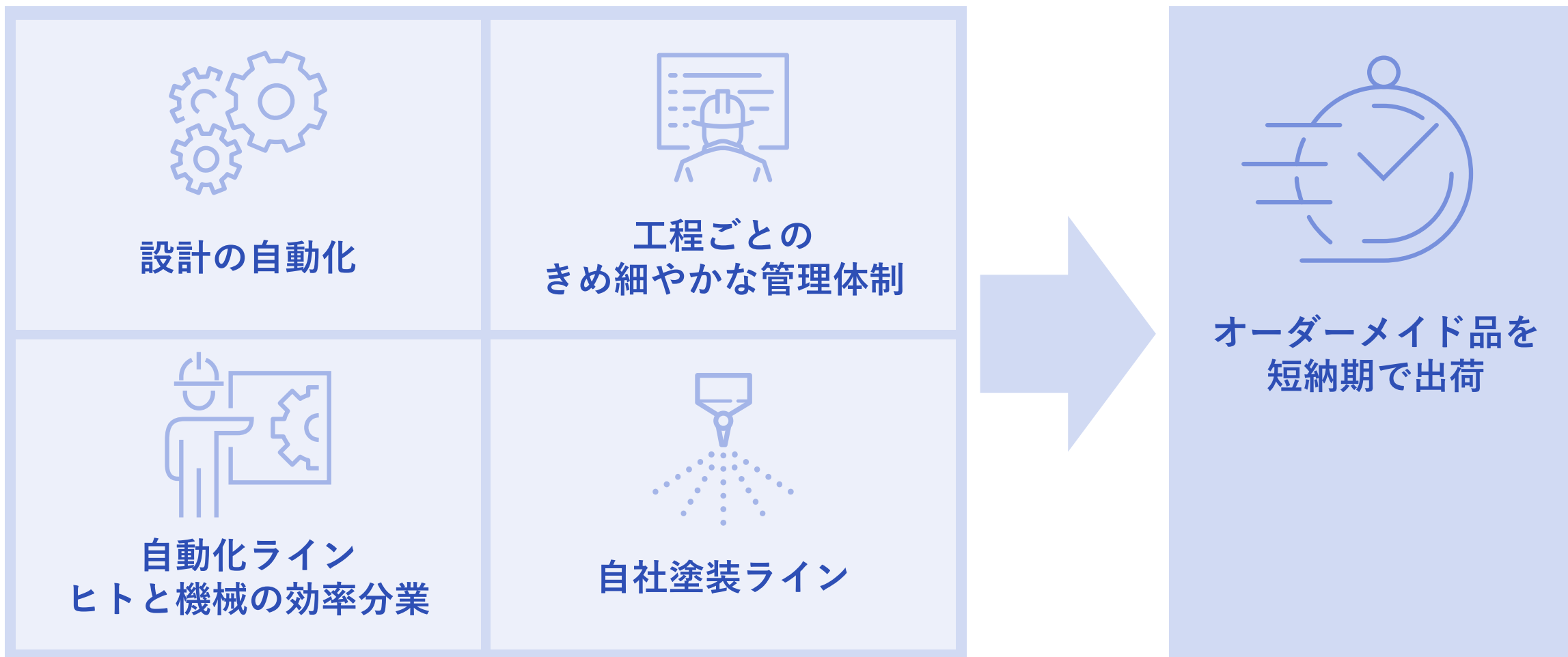
## 近年の取組み⇒ショールーム

- 大阪・東京・仙台に大規模ショールームを持ち、主要製品を展示、施主や導入企業との商談の場となり、お客様と一体になったものづくり



# オーダーメイドを短納期で成し遂げる生産ライン

■ 小ロット多品種生産ができる仕組みを作り、オーダーメイド品を効率的に生産。受注から出荷まで3~4週間で対応





小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社  
総務部

TEL 0761-21-3131(代表)

[https://komatsuwall.co.jp/form/form.php?form\\_id=201](https://komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。